

“道徳授業「ルールとマナー」の感想(5 組)”

東京都千代田区の役所が地域の環境をより良くしようと住民と共に取り組んだ出来事が描かれている。役所は最初、住民の中にあるマナーを大切にしようとする心を向上させようと取り組んだ。しかし、改善につながらなかった。そこで、全国で初めての「生活環境条例」を定め、ルールを厳しくした。結果、地域は目に見えて改善していったが、一方でルールをかいこぐるようにして違反するものは後を絶たなかった。

授業の感想

『私は今日登校中におにぎりのゴミをポイ捨てしている人を見かけました。その人は何もなかったように平然と通り過ぎ、少し悲しかったです。そういう人がいるから、今回の教科書の話のように厳しく取り締まったり、罰金を取ったりしなければいけなくなってしまうと思います。それは注意される側も、中止する方も良い気持ちではないと思うから、自分からマナーを守って、ルールを決める必要が無くなるように一人一人の意識が変わってほしいです。自分もポイ捨てをしないだけでなく、ゴミ拾いなどにも参加し行動していきたいと感じました。』

『マナーが多いと清々しく、楽に過ごすことができると思います。しかし、マナーを守らない人も多数いると分かりました。だから、自分が楽しく過ごせるようマナーを守り、ルールをあまり作らないようにし、作られたルールは徹底的に守り、安心・安全な生活ができるようにしたいと思いました。』

『マナーが多すぎてもダメとか、マナーを守らない人をどうすれば解決できるかなど難しいことだと思いました。マナーとルールはシンプルだけど、簡単なことではないと思いました。』

『私が今回の授業で思ったことは人それぞれ違うということと、マナーは少し自由な感じだけれど、ルールは堅苦しい感じということがわかりました。でも、マナーやルールは場所や地域、国ごとに違うので、人のことを考えられるようになりたいです。』

『今回の授業を通して、マナーやルールの違いに改めて気づけました。「ルール」を一つの手段として、それぞれがマナーを主体に思いやって動けるのが理想だと思います。そこに少しでも近づけるように普段の生活を見直してみたいです。』

よのなかルール 32 <「メシを食べる大人になる！よのなかルールブック」高濱正伸監修>

「「自分はひとりで生きられる」なんてかんちがいしない。」

人間は、寄り集まって、頼ったり助けたりして
生きていく生きもの。
「みんながいてこそ自分がいる」ということを
忘れないように。

